

2. 千葉東沿岸の問題点・課題

現況把握結果より千葉東沿岸の海岸の保全・整備に関する「防護面」「環境面」「利用面」における問題点・課題を整理すると以下の通りである。

《防護面からみた問題点・課題》

長大な砂浜海岸である九十九里浜の南部及び北部の海岸では侵食が著しく、これまでヘッドランドの整備などにより急激な侵食の防止を図っている現状であるが、未だ解決には至っておらず、放置しておけばさらに侵食が進行することが懸念される。

また、和泉、日在浦をはじめ、御宿、部原、勝浦や和田、白子など外房の一部のポケットビーチでは、侵食傾向や浜幅が狭い状態が見られる。

さらに銚子半島の酉明地区や九十九里浜の北部の海岸、天津小湊の神明地区などにおいては飛砂が問題となっている。

太平洋に直接面することから、これまで順次、堤防・護岸等の整備により高潮・高波からの防護を図ってきたが、銚子半島の酉明地区や外川漁港、名洗港、九十九里の木戸地区や一宮地区、さらには、外房の岩和田、御宿、天津小湊の漁港、鴨川の広場東、和田の白渚など、背後に道路や住宅などが立地し、越波、飛沫被害が問題となっている海岸が点在しており、高潮・高波対策の推進が課題となっている。

また、銚子半島の君ヶ浜、外川漁港、北九十九里海岸、太東海岸や千倉海岸の瀬戸地区など、海岸保全施設の老朽化や天端高不足が見られる海岸がある。

多くの沿岸市町村においては、避難地の設定や防災訓練・避難訓練の実施、安全情報伝達施設の設置などの津波ソフト対策が講じられているものの、1703年の元禄津波など沿岸に多くの被害をもたらした津波の実績があり、さらには九十九里の南部など一部の低地では浸水被害が予測されているなど、海岸ごとのきめこまやかな津波対策の検討が課題となっている。

《環境面からみた問題点・課題》

特定植物群落や砂浜に生育するハマヒルガオなどの海浜植生やウミガメ・コアジサシなどの動物が上陸・生息する海岸も残されている一方、沿岸部の利便性や安全性を高める道路や港などの整備や防災施設の設置、砂浜への車両の進入などの人為的な影響などにより、それらが減少・消滅している海岸もある。

九十九里浜のほか、犬吠埼や屏風ヶ浦の海食崖、太東崎の海食崖、鵜原理想郷や鯛の浦の海食崖、おせんころがしの断層海岸、鴨川松島の多島海、仁右衛門島や野島崎の波食台、洲の崎の海食崖など銚子半島、外房の崖・岩礁海岸は、環境省(旧環境庁)指定の自然景観資源となっているほか、銚子半島の犬吠埼君ヶ浜海岸、九十九里浜、外房の鵜原海岸、守谷海岸、前原・横渚海岸は「日本の渚百選」、九十九里海

岸や外房の東条海岸、平砂浦は「白砂青松百選」といった全国規模の景観指定を受けている海岸があるなど、多くの自然景観が残っており、水質も概ね良好である一方、流入河川などから排出されるゴミや漂着する流木、利用者の出すゴミや不法投棄などの問題が各地で生じていることなどから、良好な自然景観を守るための方策について検討することが課題となっている。

銚子半島は水郷筑波国定公園、九十九里浜は県立九十九里自然公園、外房は南房総国定公園に指定されているほか、南九十九里の一部や岬町から勝浦市にかけての海岸、館山市の岩礁海岸の一部では、鳥獣保護区の設定がある。

また、九十九里浜や平砂浦の砂浜海岸背後には飛砂防備・潮害防備の保安林、銚子半島や外房の崖海岸上には魚つき保安林があるなど、海岸部には環境関連の法規制も多いことから、これらの自然環境の維持・保全になお一層取り組む必要がある。

《利用面からみた問題点・課題》

海岸域の低平地に土地利用や漁業・観光レクリエーション利用が密集していることから、海岸部と背後地が一体となった、秩序ある海岸域利用が課題となっている。九十九里などの遠浅の砂浜海岸では浅海域の漁業が活発であり、外房では入り組んだ海岸線を利用した漁港が数多く、名洗港・興津港の2つの港湾は避難港として利用されている。

また、日本一数が多いことで知られる海水浴場や国内発祥の地として知られるスポットが在るサーフィンスポットなどが沿岸全域において広く分布していること、さらには、黒潮文化の色濃い海への信仰を継承する祭りや文化財、海岸を利用したイベント、ボランティア・NPOなどの文化・学習活動を含めた地域活動も多いことなどから、これら海岸利用の錯綜に対する対応について検討する必要がある。

ほぼ全域に渡って沿岸に道路が走るなど海岸までのアクセスは良好となっているが、利便施設の不足・改善が求められている海岸や、バリアフリー化の必要性が指摘されている海岸が多いなど、海岸における利便性、快適性の向上に向けた取り組みが必要である。